


専門研修「保育・子育て」

【日時】	<p>【第1回】令和3年5月11日(火)、12日(水) 9:00~17:00</p> <p>【第2回】令和3年6月2日(水)、3日(木) 9:00~17:00</p>
【会場】	CIVI 研修センター秋葉原
【受講者数】	150名(第1回、第2回合計)
【講師】	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(元)日本女子大学 家政学部 児童学科 特任教授 西 智子 氏</li> <li>・聖徳大学 短期大学部 保育科 教授 岡田 耕一 氏</li> <li>・東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科 教授 加藤 繁美 氏</li> <li>・東京家政大学 家政学部 児童学科 准教授 森田 浩章 氏</li> </ul> <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前掲 加藤 繁美 氏</li> <li>・東京子ども専門学校 専任講師 宍戸 千雅 氏</li> <li>・前掲 西 智子 氏</li> <li>・前掲 岡田 耕一 氏</li> </ul>
【研修内容】	<p>&lt;目的&gt;</p> <p>保育・子育て支援に関する専門知識を習得し、職務遂行能力の向上を図る。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子育て支援と保育者の役割             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援の意義</li> <li>・ 子育て支援者としての保育者の役割</li> <li>・ 保護者に対する理解と支援のポイント</li> </ul> </li> <li>② 子どもの発達過程の理解と保育者のかかわり方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの年齢に応じた心と身体の発達の理解と保育者としてのかかわり方</li> <li>・ 子どもの心に寄り添う保育</li> </ul> </li> <li>③ 心の育ちと対話する保育実践             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育記録の重要性</li> <li>・ 実践記録の書き方、活かし方</li> </ul> </li> <li>④ あそびを通した子どもの育ちの支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製作等における実技のポイントと保育への活かし方</li> <li>・ 子どもの成長におけるあそびの重要性</li> </ul> </li> </ol> <div data-bbox="940 1397 1382 1727" style="text-align: right;">  <p>&lt;製作の様子&gt;</p> </div>
【受講生の声】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを支援することが、保護者支援につながるようになりました。また、自分の価値観を押し付けず、「親が親になるプロセス」を見守ることが大切だと学びました。</li> <li>・子どもの身体的・精神的な発達過程を細かく理解することができ、とても良かったです。保育士の関わり方として、応答的な関わり方がどれだけ大切なことを改めて感じました。今回学んだ様々な応答的声掛けを、日々の保育の中で意識していきたいです。</li> </ul>

- ・講師のお話が私の心に入ってきて、明日から子どもと接するのが楽しみで、早速記録を取っていきたくて思いました。子どもの言葉にならない言葉を汲み取り、受け止め、子どもの気付きにつなげられるように援助していきたくて思っています。
- ・「あそび」は年齢を問わず、それぞれを自由に表現することだと感じました。保育士も子どもも「おもしろい!」「ふしぎ!」「たのしい!」と感じられるような保育をしていきたくて思いました。
- ・実際にいろいろなじゃんけんをしたり、製作をしたりして、明日からの保育に活かせる内容で楽しかったです。自分でも調べて、保育に活かせる遊びの引き出しを増やしたいと思っていました。